



# 学校だより

3月号

令和3年2月26日

まちのみんなひとつになあれ

「はるよ こい」

校長 堀野 由里

暖かい日が多くなり、日差しも明るくなりました。休み時間にソーシャルディスタンスの約束を守りながらも、楽しく外で遊んでいる子どもたちを見ていると、本当に「はる」が待たれます。

先日、創立45周年記念式を行いました。5月2日の創立記念日は学校が臨時休業中でしたので、11月の航空写真の撮影も終わり、記念品のできあがるのを待ってから、式を行いました。相武山小学校の大きな特徴のひとつは、地域とのつながりです。これまでみんなで大事にしてきた「まちのみんなひとつになあれ」の言葉のとおり、まちの中の学校として、相武山のまちの、「人」「もの」とのつながりを大切にしてきました。学校には、多くのまちの方たちが関わってくださいました。互いに顔の見える関係があり、子どもたちはその中で励ましてもらい、認めてもらってきました。人生の先輩と触れ合うことは、大人への信頼感を生み、まちへの愛着をもって、心も体も健やかに成長することにつながります。そして卒業した子どもたちは、今度は「まちの人」となり、先輩となって、また関わりをつくり出していきます。

そんな相武山にとって、「まちとのかかわり」が難しい最近の状況はとてもつらいものでした。それでもできる場面で、多くの方たちができることをしてくださいました。私は校長として、45周年の式の中で、このつながりを続けられるようにという願いで話をしました。多くのまちの皆さんにご協力いただき、ビデオ収録や取材などをさせていただきました。時間が限られていて、すべてを紹介できなかったのですが、取材させていただきながら、まちの方たちの学校や子どもたちへの思いを深く感じ、このつながりをますます大事にしたいと思いました。

来年度以降も、感染症拡大予防のための制約が続くかもしれませんが、「まちの中の学校」としてまちを大事にしていこう、つながりを続けていこう、と思っています。早く状況がよくなって、地域の皆さんが来校し、子どもたちに関わっていただける日が来ることを切に願っています。

先日の不審者の一件では、地域の皆様に登下校の見守りをいただき、ありがとうございました。子どもたちには引き続き、注意喚起をしていきたいと思っています。今後とも安全への見守りをどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も、地域の皆様、保護者の皆様には温かいご支援をいただき、感謝申し上げます。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

